

私立大学の現場から見た 入試

東京理科大学

入試課長 佐々木有朋 06,09,27

目 次

1. 東京理科大学の概要
2. 私立大学の入試結果
3. 本学の入試広報活動
4. 経済環境から見た学生募集

東京理科大学の概要



- 1881・・・東京物理学講習所
- 1883・・・東京物理学校
- 1949・・・東京理科大学
- 1985・・・東京理科大学山口短期大学
- 1995・・・山口東京理科大学改組
- 1990・・・東京理科大学諏訪短期大学
- 2002・・・諏訪東京理科大学改組



東京理科大学のキャンパス所在地



大学の構成員

構成(学生)		在籍者数
学部	8学部33学科	16,890
専攻科	1専攻科1専攻	29
大学院	7研究科26専攻	2,784
専門職大学院	1研究科2専攻	280
合計		19,983

構成(教職員)	教職員数
教育職員	801
事務職員	389
技術職員(看護師含む)	92
合計	1,282

理学部第二部・教務課・・・事務機械化推進部、教職免許法改正、カリキュラム
薬学部・・・大学改革、薬剤師国家試験対策、カリキュラム、予算

野田校舎(教務課)・理工学部、基礎工学部・・・

教職免許法改正、成績不良者の支援

理学事務課(組織再編成)・・・有志による勉強会発足

入学課・・・入試、学部統括、入試広報活動

学務課、教職支援室(組織再編成)・・・学部統括、教職免許、入試

入試課・・・入試アドバイザー、地方入試導入、高校訪問、入学前支援

学会、研究会へ参加

大学行政管理学会、日本高等教育学会、高等教育研究会、

桜美林大学大学院、筑波大学大学センター、私学高等教育研究所

私立大学の入試結果

日本私立学校振興・共済財団資料より

単位：学校数

入学定員充足率の区分	97年度	98年度	99年度	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
150%以上	13	8	6	8	6	10	9	7	5	3
140%以上 150%未満	13	13	15	10	12	10	9	3	4	2
130%以上 140%未満	42	35	30	34	45	45	43	28	17	4
120%以上 130%未満	137	139	99	119	115	115	107	98	95	75
110%以上 120%未満	142	140	115	100	113	113	123	152	151	133
100%以上 110%未満	55	69	96	69	71	71	83	90	110	111
90%以上 100%未満	12	18	41	38	31	31	32	37	44	75
80%以上 90%未満	9	8	22	36	37	37	39	39	42	51
70%以上 80%未満	0	2	8	21	27	27	26	20	22	34
60%以上 70%未満	0	6	10	14	14	14	19	24	23	27
50%以上 60%未満	1	0	5	5	22	22	14	20	12	15
40%以上 50%未満	0	0	2	7	6	6	7	8	6	10
30%以上 40%未満	0	0	0	8	3	3	5	4	6	4
20%以上 30%未満	0	0	0	1	2	2	3	2	3	5
20%未満	1	1	1	1	2	2	2	1	2	1

100%以上の大学	402	404	361	340	362	364	374	378	382	328
50%以上100%未満の大学	22	34	86	114	131	131	130	140	143	202
50%未満の大学	1	1	3	17	13	13	17	15	17	20
(100%未満の大学の割合)	5.4%	8.0%	19.8%	27.8%	28.5%	28.3%	28.2%	29.1%	29.5%	42.5%
計	425	439	450	471	506	508	521	533	542	750

入試結果

参考：日本私立学校振興・共済事業団

区分	18年度		17年度		増減	
	全国（人）	本学（人）	全国（人）	本学（人）	全国（人）	本学（人）
入学定員	440,335	3,495	431,077	3,515	9,258人(2.1%)	△20(0.1%)
志願者	2,948,624	45,269	3,014,292	46,683	△65,671(△2.2%)	△1,414(0.4%)
受験者	2,816,774	43,813	2,887,833	44,373	△71,059(△2.5%)	△560(0.2%)
合格者	1,043,518	17,327	996,120	16,001	47,398(4.8%)	1,326(0.2%)
入学者	472,253	4,047	473,733	4,052	△1480(△0.3%)	△5(0.1%)

志願者倍率	6.7倍	13.0倍	7.0倍	13.4倍	△0.3	△0.5
合格率	37.05%	39.50%	34.49%	36.06%	2.56%	3.44%
歩留率	45.26%	23.40%	47.56%	25.32%	△2.30%	△2.08%
入学定員充足率	107.25%	116.00%	109.90%	115.28%	△2.65%	0.01%

注意：本学（人）はA方式とB方式の合計

志願者倍率＝志願者÷入学定員

合格率＝合格者÷受験者

歩留率＝入学者÷合格者

入学定員充足率＝入学者

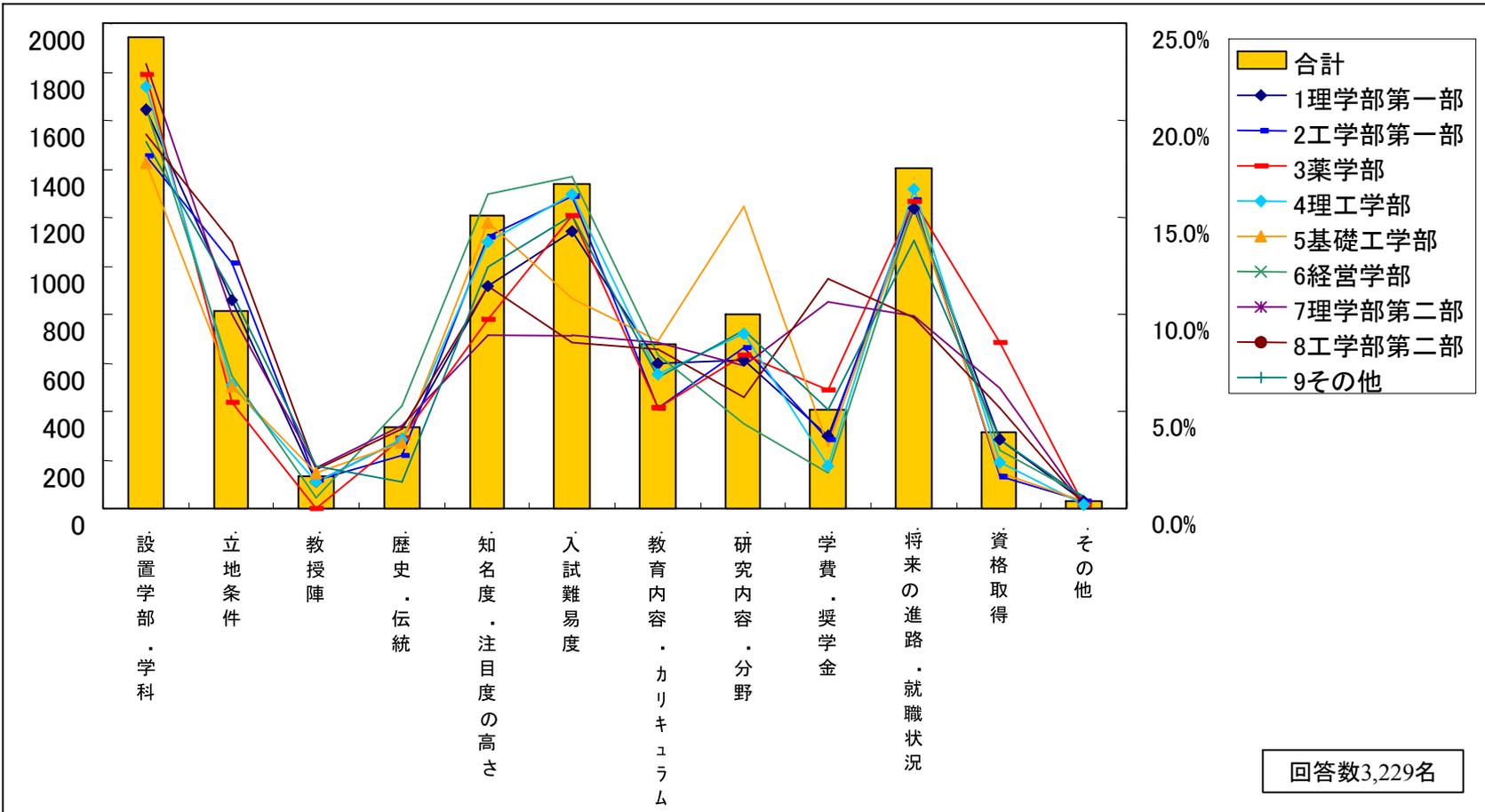
学部別定員充足率

学部学科	2006年度			2005年度		
	定員	入学	充足率	定員	入学	充足率
理学部第一部	600	698	1.16	600	708	1.18
薬学部	180	203	1.13	200	226	1.13
工学部第一部	400	503	1.26	400	456	1.14
理工学部	1115	1298	1.16	1115	1352	1.21
基礎工学部	240	314	1.31	240	280	1.17
経営学部	240	282	1.18	240	282	1.18
昼間学部計	2775	3298	1.19	2795	3304	1.18
理学部第二部	480	506	1.05	480	494	1.03
工学部第二部	240	243	1.01	240	254	1.06
夜間学部計	720	749	1.04	720	748	1.04
合計	3495	4047	1.16	3515	4052	1.15

本学の入試広報活動

受験生の意識調査

志望校選択の際、何を重視しましたか(複数回答可)

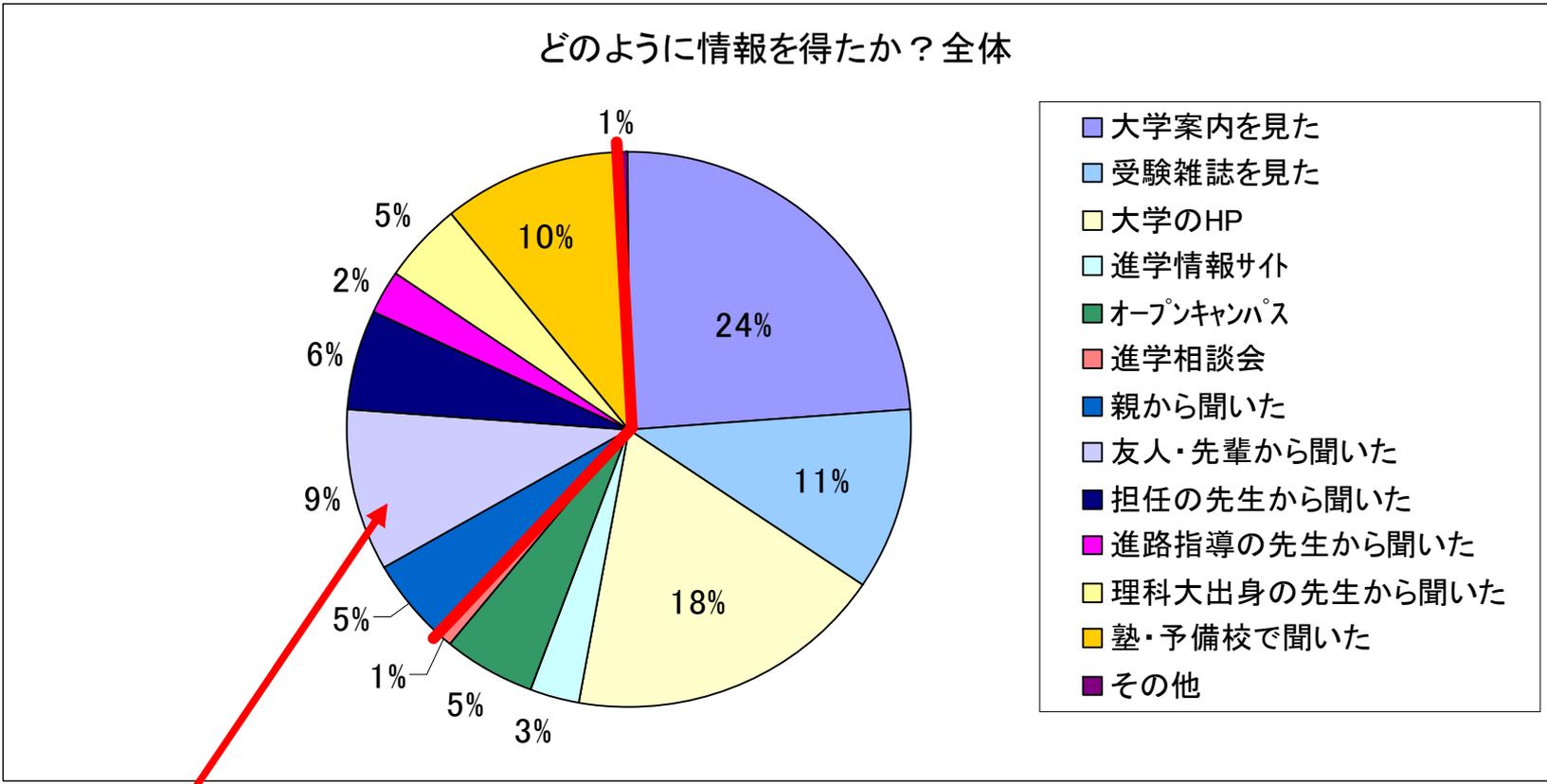


「設置学部・学科」、「進路状況」「入試難易度」「良好な進路・就職状況」に強い関心が集まっており、これらの内容を重点的に広報することが重要である。これは大学本来の質の高さに由来する項目であり、短期間で効果を出すことが困難であるため、担当の部局ではそれぞれの指標の数値がより改善方向になるよう、留意することが必要である。

学部別では大きな偏りは見られないが、「基礎工学部で研究内容・分野の構成比が高い」「二部で学費・奨学金の構成比が高い」「知名度・注目度、入試難易度が経営学部で若干高い」などの特徴がある。

受験生の意識調査

東京理科大学への入学を選んだ際の情報源

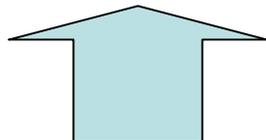


約40%の入学者が口コミの情報を得ている。

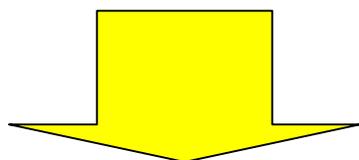
※回答数: 3229名
(複数回答)

大学の認知から決定まで

認知 → 関心 → 理解 → 欲求 → 決定



- ・HP、大学案内
- ・雑誌(受験雑誌、一般雑誌、新聞)
- ・イベント(進学相談、キャンパス見学会、公開講座)
- ・訪問活動(高校、予備校など)
- ・口コミ(高校の先生、友人、保護者、志望校の先輩)
- ・高大連携



- ・教育・研究内容
- ・学生生活
- ・進学・就職・資格など
- ・入試制度(得意科目や適性が生かせるか)

判断材料

自分に合った大学

2004年度から新に導入した入試広報活動

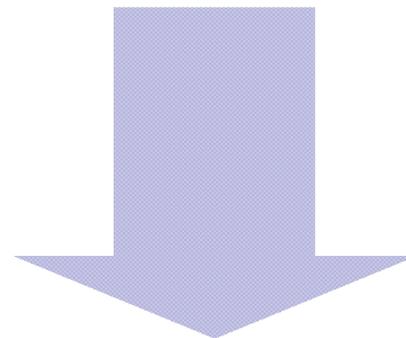
- **入試アドバイザー制度導入**（2004年4月）
関東地区の高校・予備校へ大学説明会・進学相談会に参加
- **全国入試制度導入**（2005年より）
2004年9月・・・地方会場の高校・予備校へのPR活動
2005年・・・理学部、工学部、基礎工学部
2006年・・・夜間学部を除く全ての学部
- **高校訪問**（6月下旬から7月中旬）（2005年より）
関東地区・・・教員、入試アドバイザー
関東以外・・・入試課、一部の管理職
- **入学前支援学習**（2006年より）
希望学科のみ

入試アドバイザーの目標

- 教育・研究内容
- 就職先、進学先など
- 大学の現状と課題
- 受験生のニーズ把握



知識

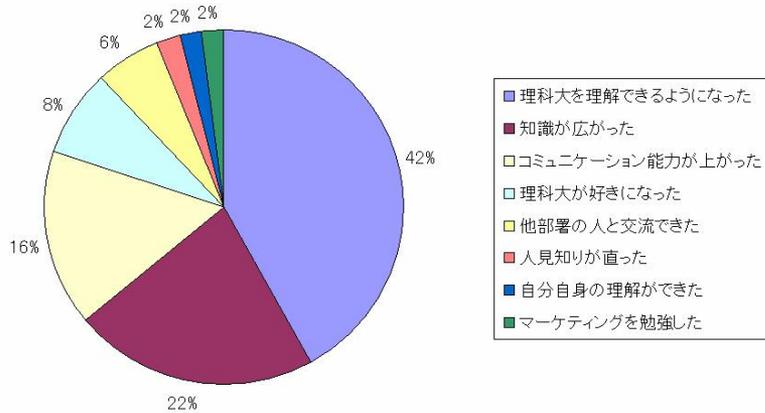


受験生への支援活動
教育の夢や大学のビジョンを
受験生にわかり易く、情熱を

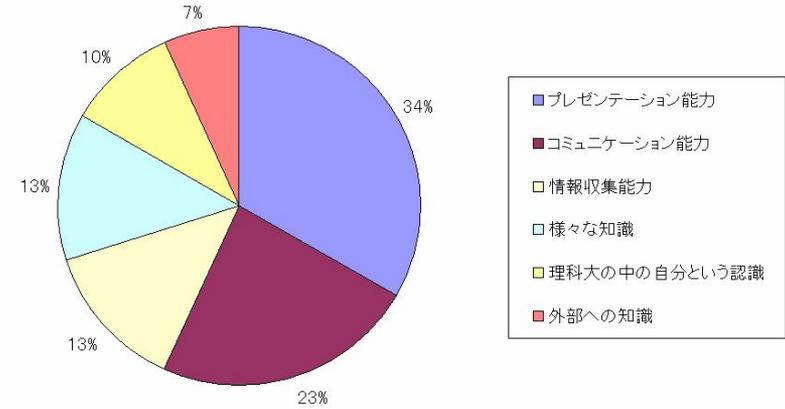
入試アドバイザーの意識調査

①回答者:27名
②無記名回答

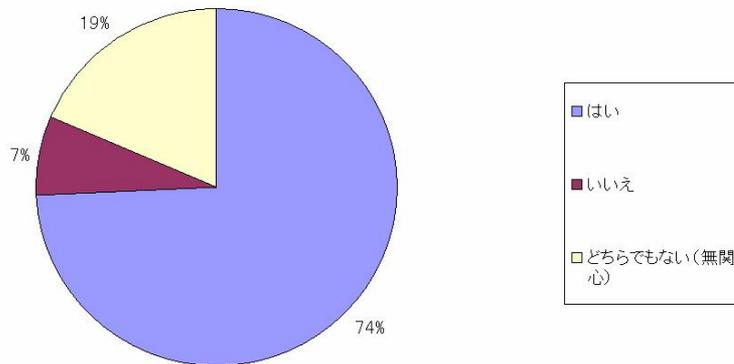
Q1.入試アドバイザーになって良かったこと



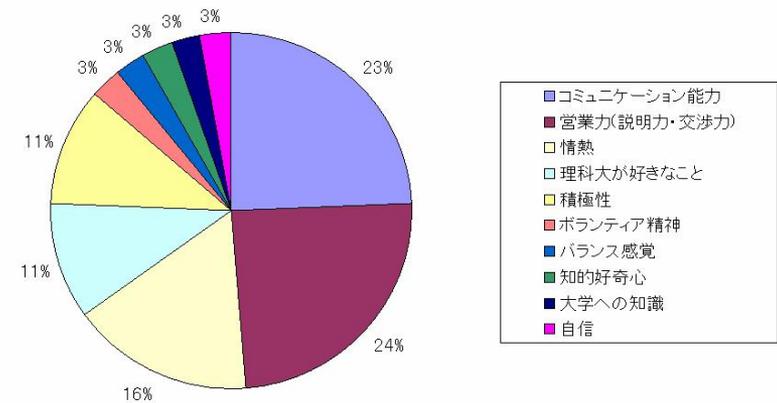
Q3.入試アドバイザーになって身についた事



Q2.所属長の協力は得られたか？



Q4.入試アドバイザーに必要なスキルは？



全国入試の目的と会場

◇目的

- ①志願者数の増加を見込む
- ②受験生の経済的・時間的負担の軽減や受験生に幅広く受験の機会を与える
- ③全国から良質な学生を集める

◇試験会場

従来からの東京会場、野田会場に加え、

札幌 仙台 名古屋 大阪 福岡

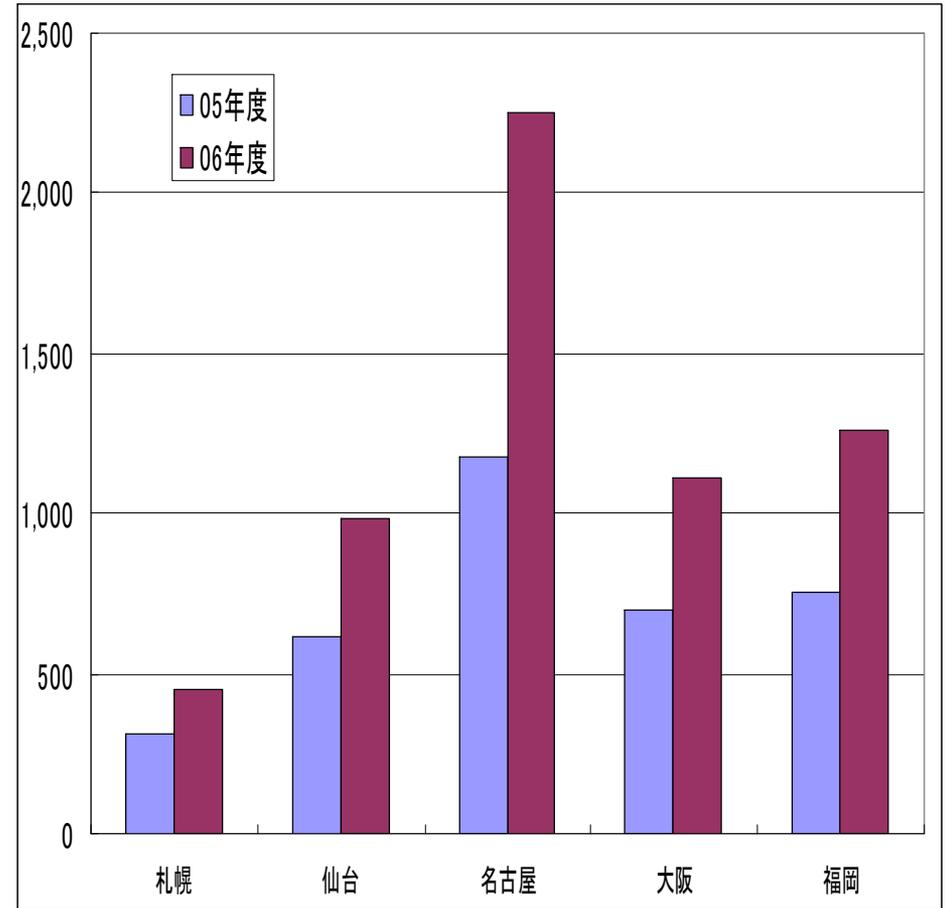
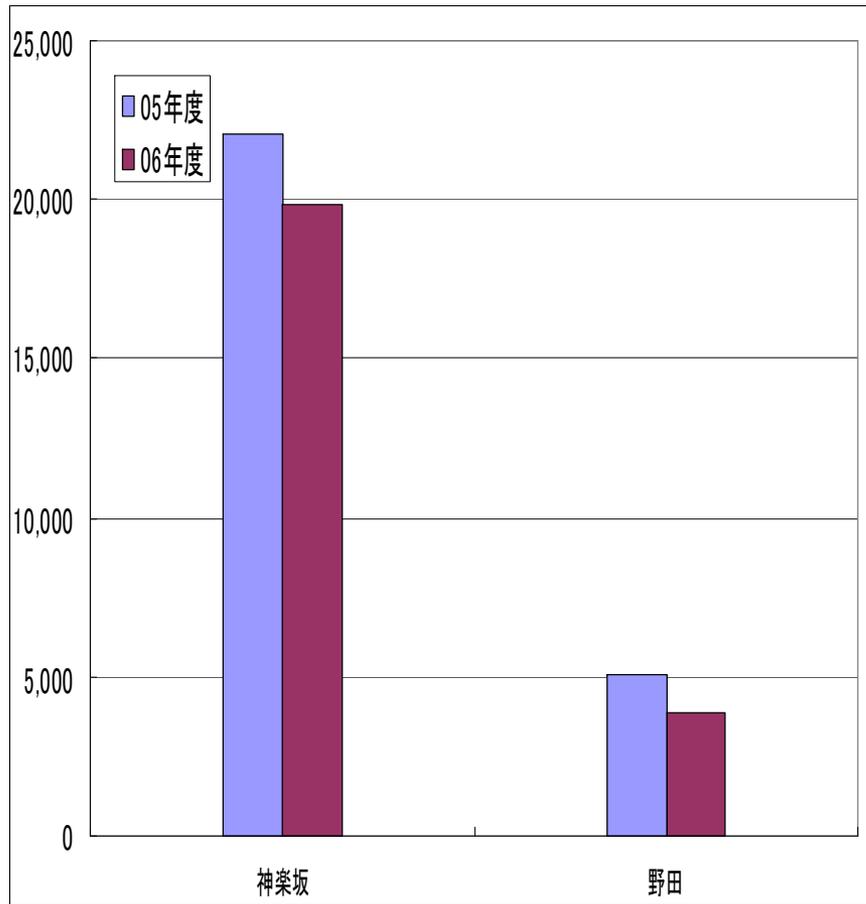
の5都市を試験会場に設定

全国入試に向けての事務処理上の対応について

地方入学試験会場プロジェクトチーム発足

- ①学生募集要項や願書様式の変更
- ②すべての受験生が**公平な環境**で受験できる試験会場の確保
- ③受験当日、**正確かつ迅速に対応**できるための事前準備
- ④試験会場エリアの**予備校や高校へPR活動**
- ⑤地方入学試験を円滑かつ迅速に行うための地方入学試験実施要項を作成
- ⑥入学試実施本部と地方入学試験会場との**緊密な連携**
- ⑦試験問題の管理・問題搬入や運搬方法などの**危機管理**

全国入試の結果



入試ミスにおける対応

入試問題のミス

補償問題

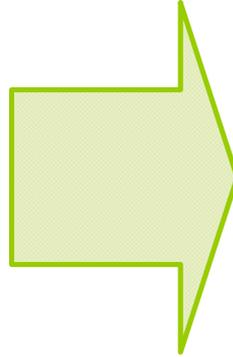
学生への対応

高校訪問の目的

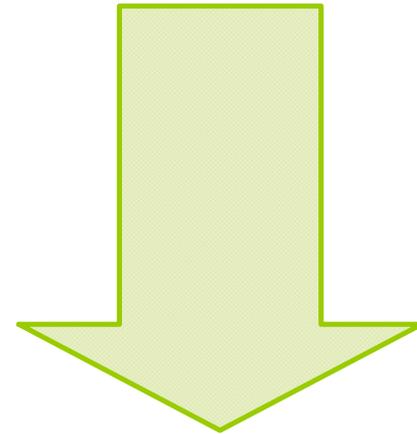
○訪問高校の事前調査
(進学先、教育方針など)

○大学からの情報提供

- ・本学の教育・研究内容
- ・教育理念、キャリア教育
- ・進学先、就職状況
- ・入試変更など

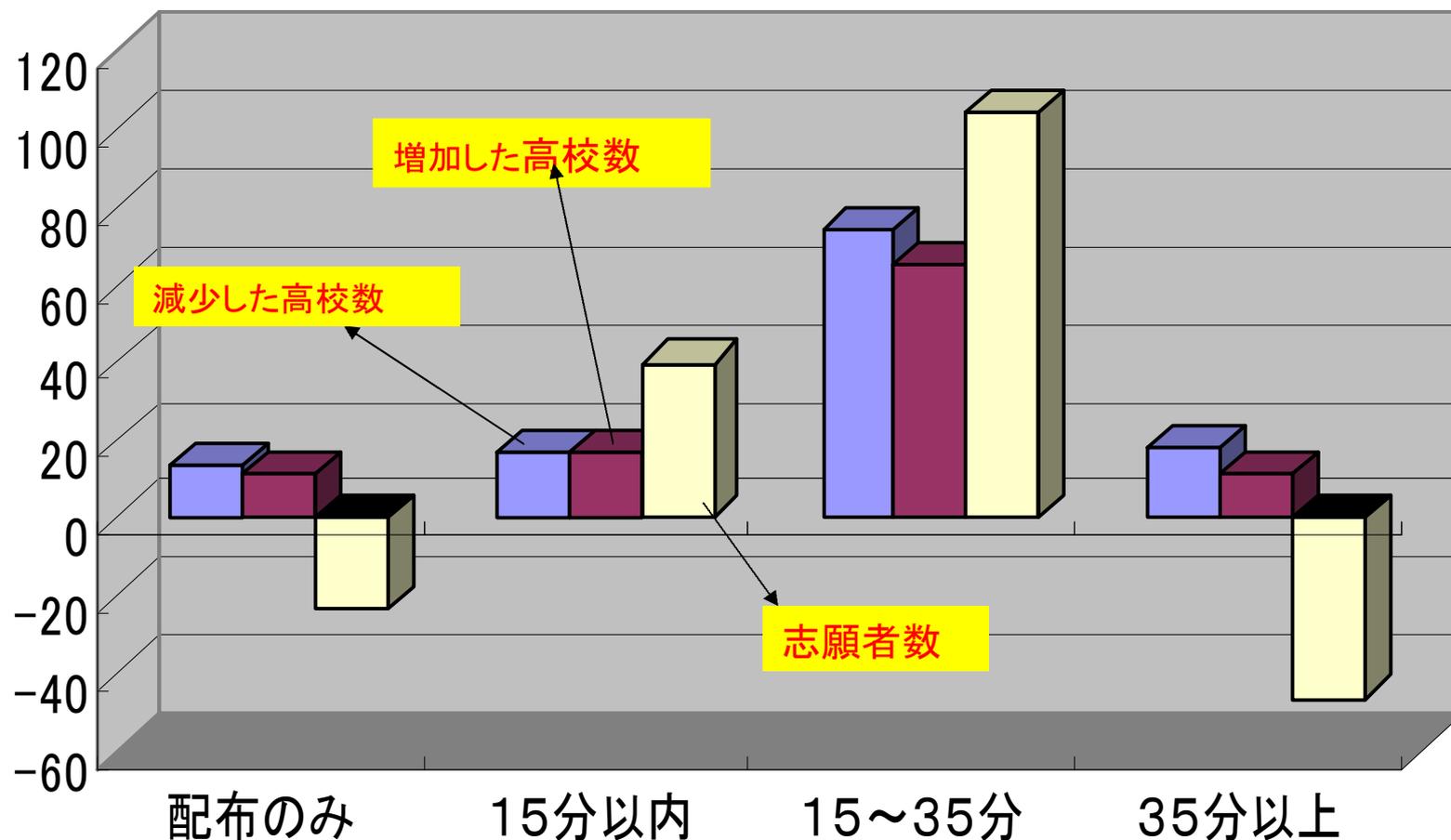


知 識



一般選抜、推薦入学へ誘導

高校訪問時間と志願者数の比較



教員と事務職員の入試広報の役割

《教員の役割》

高校と連携授業

補習授業

教育理念のアピール

《職員の役割》

高校生のニーズ調査

志願者動向調査

ターゲット高校調査

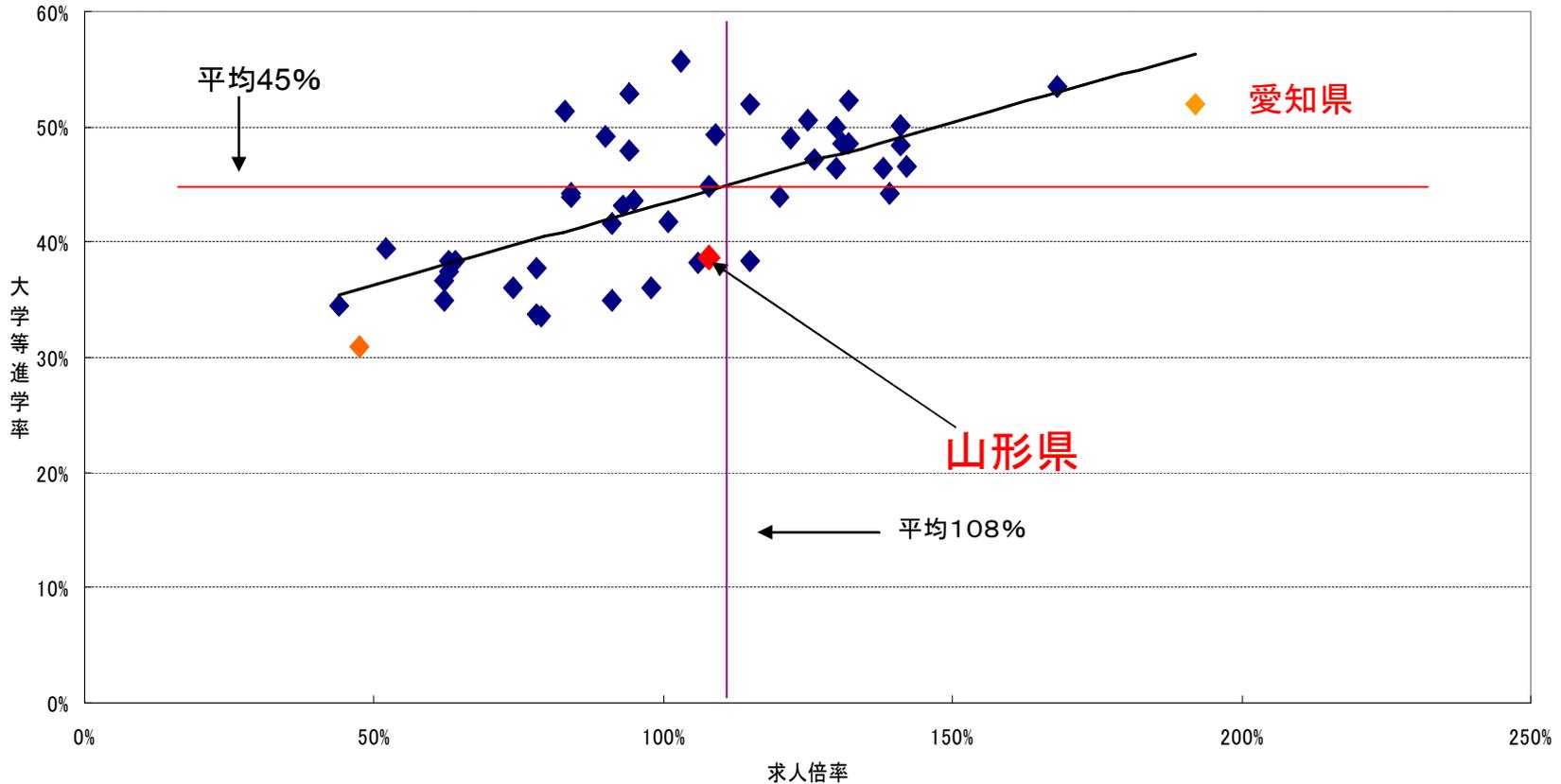
高校、予備校訪問

競合大学調査

在学生アンケートの集計と分析

経済環境から見た学生募集

進学率と求人倍率の関係



求人倍率の高い県(景気の良い県)ほど大学進学率も高い

最後に

教員と職員の役割分担を充実に

教員

- 1) 活発な研究・教育活動と社会貢献へ
- 2) 教育サービスの提供(教育付加価値)
- 3) 社会変化に柔軟に対応を

事務職員

- 1) 研究・教育の支援
- 2) 業務(行政、財務、管理、監査など)
- 3) 学生支援(就職、学習、奨学金、学生募集など)
などの専門的知識・技術修得すること。

教員と職員は良きパートナー

サッカー型職員

仕事を頼まれたら「出来る」から始める



「信頼」・「人脈」・「知識」

ご清聴ありがとうございました

山形大学が今後ますますご発展されることを
心からご期待申し上げます